

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成29年3月1日～2日に陸奥湾3定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

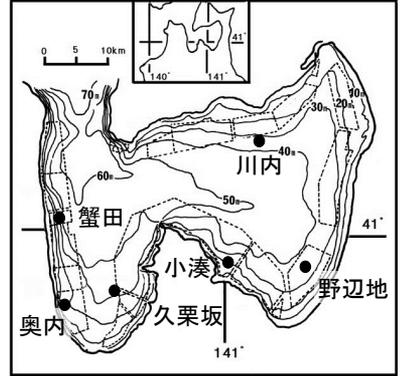


図1 ラーバ調査地点

1 ラーバ等の出現数

(1) キヌマトイガイ(コメガキ)

ラーバは、久栗坂沖で45.6個体/m³、小湊沖で171.3個体/m³、川内沖で129.7個体/m³見られました(表1、図2)。平成29年2月1日～同年3月2日まで久栗坂沖、川内沖で実施した付着基質調査でも付着が見られました。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは、久栗坂沖で2.2個体/m³、小湊沖で2.5個体/m³、川内沖で7.8個体/m³見られました(表1、図3)。上記の久栗坂沖、川内沖における付着基質調査でも付着が見られました。

(3) オベリア類(クサ)

クラゲは、川内沖で4.7個体/m³見られました(表1、図4)。上記の久栗坂沖、川内沖における付着基質調査でも約3mmのオベリア類の付着が見られました。

(4) その他

ユウレイボヤのラーバとアミクサの小片は見られませんでした。

調査地点	調査月日	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	オベリア
久栗坂沖	H29.3.1	45.6	2.2	0.0
小湊沖	H29.3.2	171.3	2.5	0.0
川内沖	H29.3.1	129.7	7.8	4.7

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

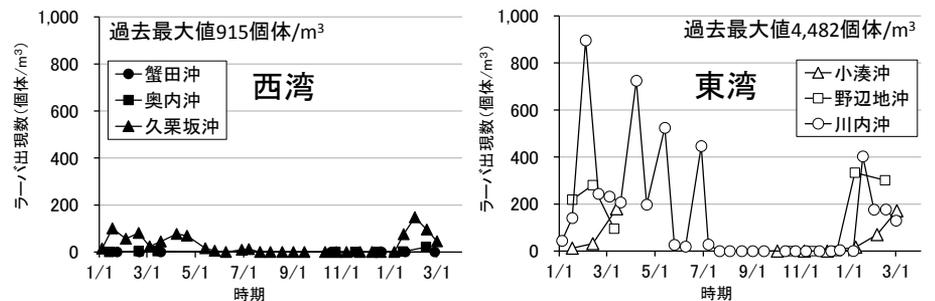


図2 キヌマトイガ イーバ 出現数の推移(平成28年1月～平成29年3月)

2 水温の状況

各ブイ中層の3月8日の日平均水温は、西湾が6～8℃台、東湾が3～5℃台です。

3 今後の見込み

(1) キヌマトイガイ(コメガキ)

ラーバは、12月下旬から継続して出現しており、付着数は、1月の付着基質調査より増加しています。例年春季にラーバが多く出現するため、今後付着が進むと思われます。

(2) ムラサキイガイ

秋の分散後におけるラーバの出現数は前年より多いため、今春の付着は多いと思われます。

(3) オベリア類(クサ)

クラゲが出現し、オベリア類が付着基質調査で見られているので、今後付着数が増加する可能性があります。

(4) その他

秋の分散後におけるユウレイボヤのラーバ出現数は前年より少ないため、今春の出荷時には大型個体の付着は少ないと思われます。アミクサ小片は先月まで見られていたので、夏にかけてパールネットに繁茂する可能性があります。

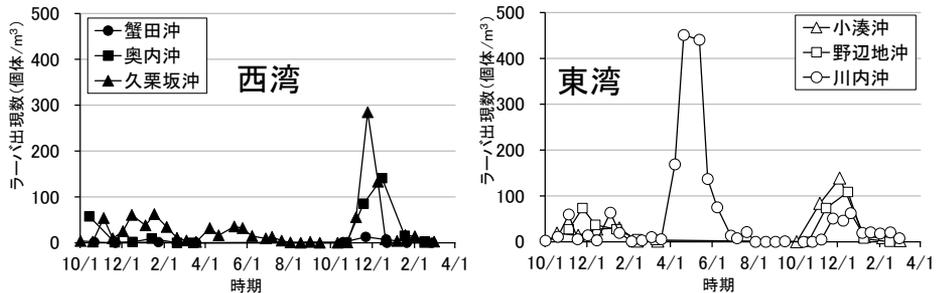


図3 ムラサキイガ イーバ 出現数の推移(平成28年10月～平成29年3月)

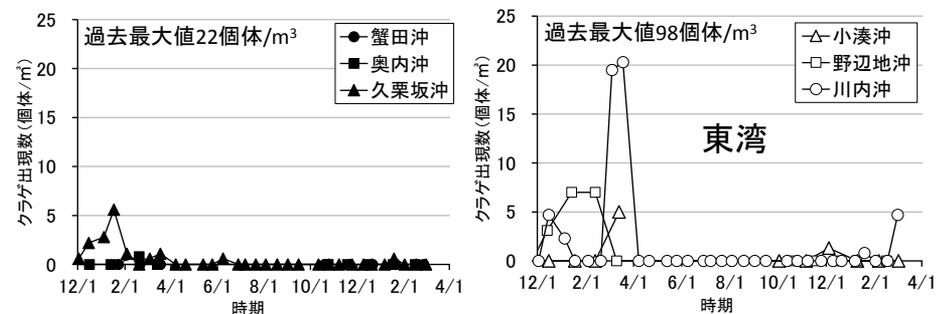


図4 オベリア類のクラゲ 出現数の推移(平成27年12月～平成29年3月)



写真 パールネットに繁茂したアミクサ(6月)

